

米国株相場見通し

1月

2022年1月号
アイザワ証券市場情報部

金融マーケティング課

2021年12月29日発行／審査番号：211229-E1

LINE公式アカウント
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa

22年の米国株式市場展望

22年の米国株式をめぐるトピック・投資戦略

テーパリングの加速を決定

米FRBは12月の会合でテーパリングの加速を発表、月額縮小ペースを従来の150億ドルから300億ドルに倍化することを決定した。このペースで縮小すると2022年3月半ばにテーパリングが終了する見通しとなる。その後の利上げの見通しについて、ドットプロット（FRBメンバーの予測中央値）は22年中に3回、23年に3回の利上げが予測されている。

経済の正常化に伴い企業業績は回復に

21年は金融緩和政策の継続や経済回復への期待から年初来で25%程度上昇している（12月22日時点）。22年に関しては、テーパリングの終了後に利上げが予測されることから、赤字または高PERのグロース（成長）株には逆風と予測される。一方、そうした懸念は財務内容が良い大企業には無縁であり、全体としての経済回復・企業利益の成長の流れは継続していくと予想される。特に消費が回復する消費財企業、旅客業や百貨店に代表される観光や宿泊・飲食などのサービス業にとっては、外出規制の緩和により業績回復が顕著になると期待できよう。ポートフォリオの構成バランスの観点から、昨年までのハイテク・グロース株シフトを改め、業績回復が期待できる業種の組み入れ、大型優良株や高配当株などの割合を高める必要があると見られる。

1月の小型株効果を視野に入れつつも

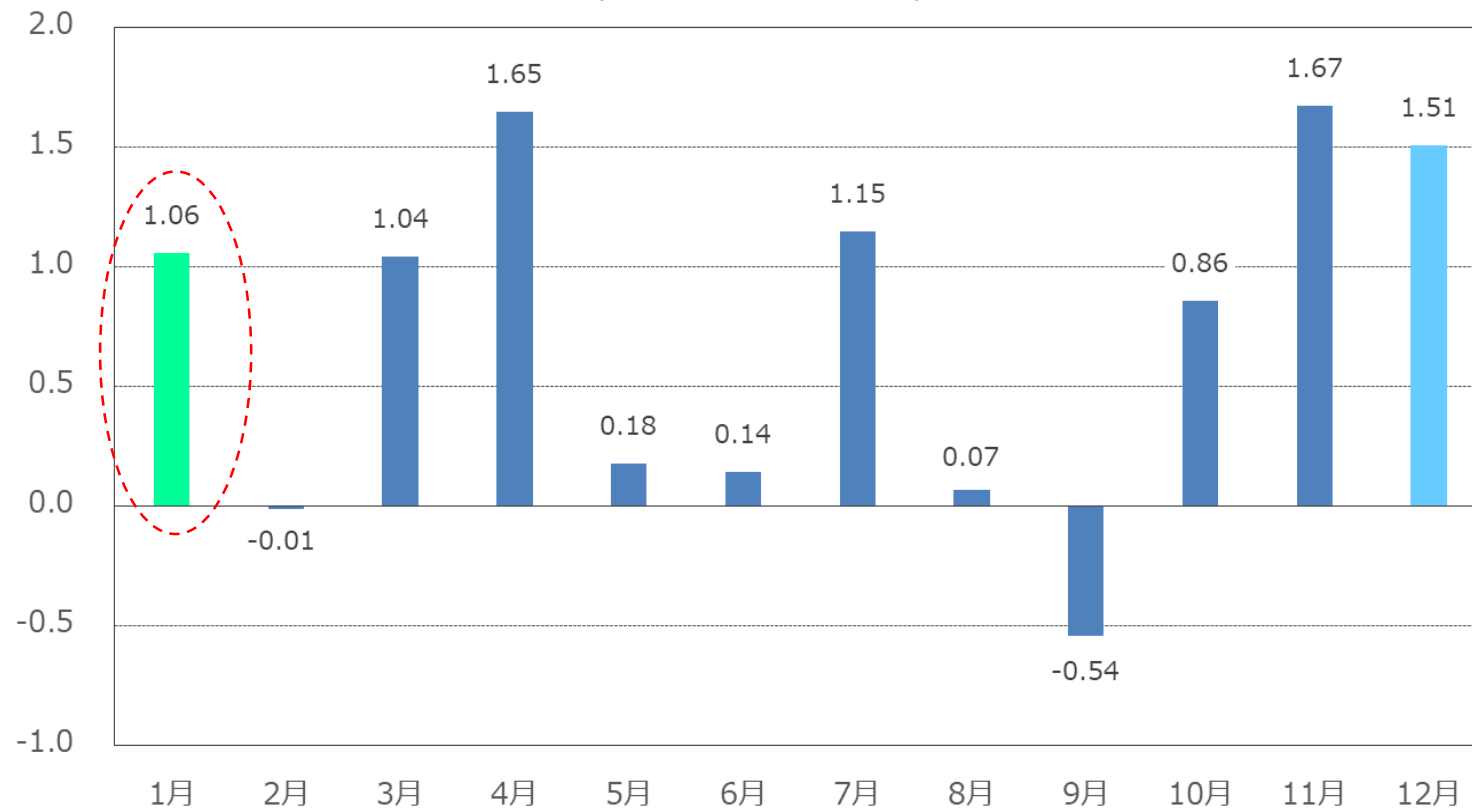
米国株のアノマリー（経験則）に基づけば例年、1月は上昇しやすい傾向にある。12月のボーナス後の新規投資資金の流入や、年末の税制対策売りの反騰などの要因により「1月効果」と呼ばれる上昇基調が局所的に派生しやすい。そうした傾向は、株式市場全体が大きく上昇した年の翌年に「小型、最近IPOした、信用売りの水準が高い、赤字企業ないし業績が悪い」などの特徴を備える株式の値動きが一時的に良くなる傾向にある。これらの現象は1月は強いものの、2月以降には一服する傾向があり、短期的なトレンドと割切り限定的な資金に留める必要がある。

年末・年初のアノマリー

S&P500種指数月間パフォーマンス

単位：%

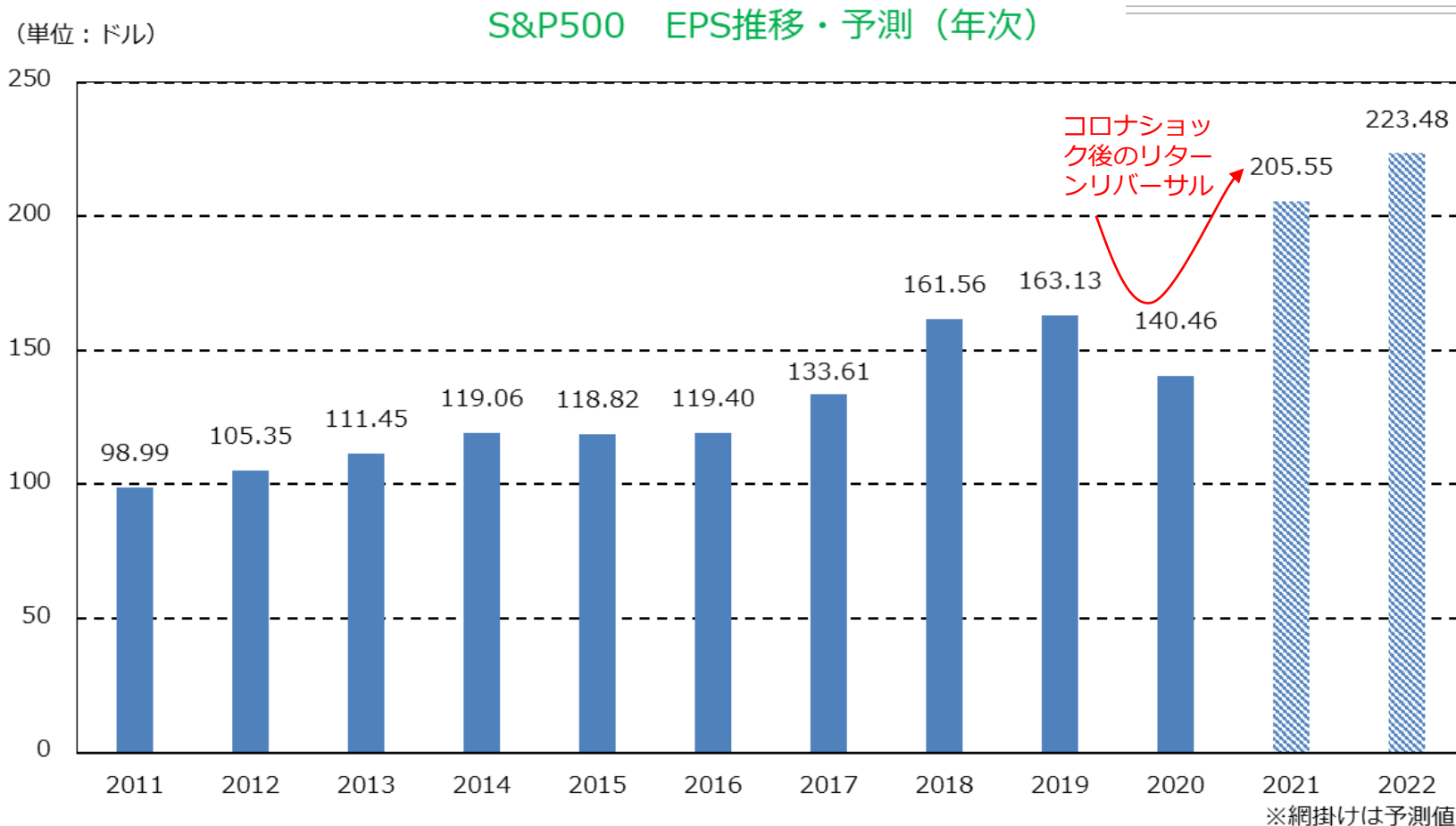
(1950年1月 - 2021年11月)



※各種データより今井正之作成

季節アノマリー（経験則）から、米国株式市場は1月効果で上昇する傾向にある反面、2月に一時調整となる傾向もある。

S&P500種 EPS推移と予測 (年次)



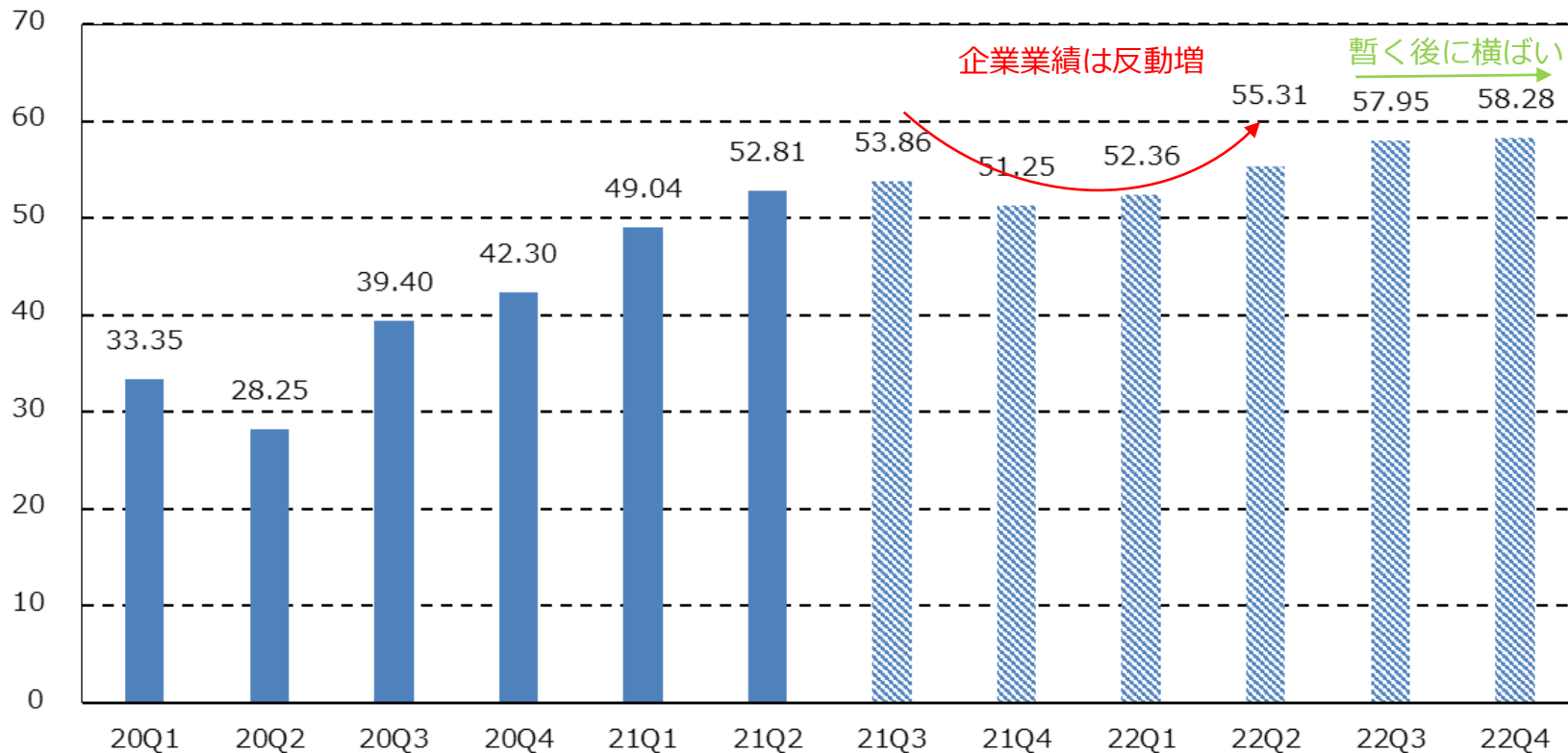
出所：ファクトセットよりアイザワ証券作成 (12月17日時点)

米国企業の企業業績は回復傾向にあり、年次ではコロナショック後の落込みからV字回復する見通し。コロナの悪影響を受けた業種ほど業績改善の効果が大いだと予想される。

S&P500種 EPS推移と予測 (四半期ベース)

(単位：ドル)

S&P500 EPS推移・予測 (四半期)



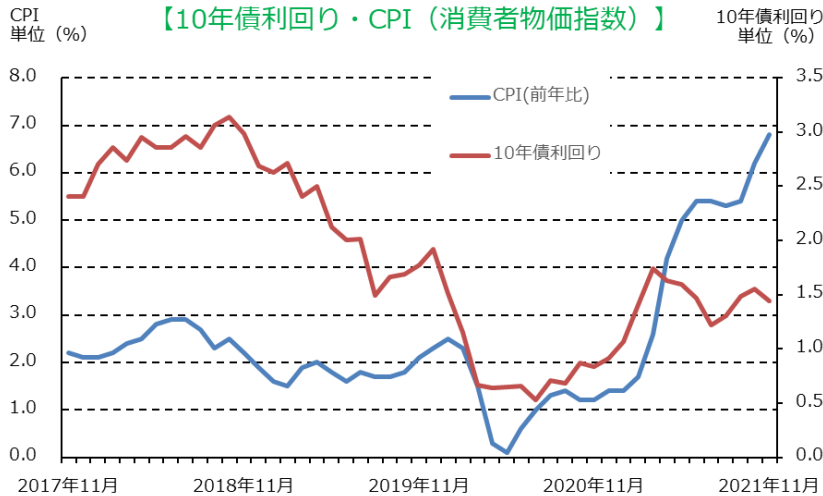
※網掛けは予測値

出所：ファクトセットよりアイザワ証券作成 (12月17日時点)

四半期ベースでは、新型コロナ変異種の影響を受けた21年第4四半期から、翌第1四半期、第2四半期にかけて企業業績が改善する見通し。

アメリカの経済動向

金融引き締め議論で、直近長期金利は上向きに



- テーパーリング加速により日独といった低金利先進国の債券と比べ米債券の魅力が若干高まり、為替市場での緩やかな円安ドル高傾向が持続するものと考えられる。
- 足元のレンジは110-120円の間で推移すると考えられる。

- 依然として前年比の物価上昇率が高水準にあり、FOMCは12月の会合でテーパリングの加速を決めた。物価上昇の主因はエネルギーや中古車価格、不動産の上昇などの項目で顕著。
- 債券市場では短期債の金利が上昇した半面、長期債の金利は小幅な変化に留まりフラットニング（長短金利差の縮小）が進行している。



企業業績（増減益率）

- 2021年1Q（1～3月）以降は、消費財や金融などの回復が顕著
- 2Q（4～6月）以降は、資本財やエネルギーなど景気敏感業種の回復が大きくなる予想
- コロナ禍でも業績を伸ばしていたハイテクは徐々に緩やかなペースへ移行

S&P500業種別利益成長率（%）								
	2020	2021				2022		
セクター	4Q	1Q	2Q	3Q（予）	4Q（予）	1Q（予）	2Q（予）	3Q（予）
消費財	-5.0	226.1	380.5	19.4	6.7	0.1	21.8	39.2
生活必需品	5.4	11.1	20.4	7.4	2.4	5.3	4.3	7.1
エネルギー	-105.0	28.0	243.3	1793.1	10460.2	163.2	59.3	3.6
金融	20.4	138.0	158.2	36.0	2.9	-18.8	-16.3	-4.6
ヘルスケア	10.6	26.7	27.2	29.0	19.3	12.7	8.1	4.7
資本財	-37.7	3.0	698.4	88.2	50.7	54.8	32.9	32.3
素材	22.7	62.4	139.5	89.2	64.2	34.5	3.0	-3.8
不動産	-10.7	5.8	38.7	34.5	13.9	10.0	-0.8	0.6
情報技術	20.4	44.9	49.6	38.2	15.8	6.0	3.8	6.3
コミュニケーションサービス	10.1	53.1	72.8	35.6	9.6	-0.1	0.5	7.4
公共	-2.6	-0.9	12.6	10.3	0.9	6.1	-10.2	-3.8
S&P500	3.8	52.8	96.3	42.6	22.2	7.6	5.2	7.5

出所：リフィニティブよりアイザワ証券作成（2021年12月17日時点）

トピック：ホリデーシーズンの消費に勢い

- 米国のホリデーシーズンの小売売上高は前年比8.5%増（期間：11/1～12/24 自動車除く）。
- 衣料品（同47.3%増）、宝飾品（同32.0%増）、家電・電子機器（同16.2%増）は2019年比でも約20～30%の増加。
- デルタ株の感染拡大が落ち着いた反動で百貨店売上は同21.2%増と顕著に増加、2019年比でも11.0%増とコロナ禍前を超える水準。

2021年のホリデーシーズン小売売上高(11/1～12/24)		
	対2020年比	対2019年比
小売売上高（自動車除く）	+8.5%	+10.7%
実店舗売上	+8.1%	+2.4%
オンライン売上	+11.0%	+61.4%
衣料品	+47.3%	+29.0%
宝飾品	+32.0%	+26.2%
電子機器	+16.2%	+19.8%
百貨店売上	+21.2%	+11.0%

出所：マスターカードのHPよりアイザワ証券作成

参考銘柄（アフターコロナの業績回復狙い）

経済正常化

■M（メーシーズ）

メーシーズは米国の有名百貨店チェーン。新型コロナウイルス後の外出需要回復の流れから、客足の戻りを期待。前述のホリデーシーズンの小売売上高から見られるように、百貨店売上高はコロナ禍前の水準に戻って来ており、米国での個人消費は拡大傾向にあると思われる。百貨店と同様に業績の戻りが期待されるホテル業界のMAR（マリオット・インターナショナル）と比較した場合、PERが5～7倍程度と割安感が見られる。

■CCL（カーニバル）

カーニバルは大手クルーズ船企業。オミクロン変異種の出現により、再び株価が低迷基調となった。12月20日発表の第4四半期業績は市場予想を下回る内容となったが、株価が戻り歩調となっている。第4四半期末時点で94億ドルの手元現金を有し、月間現金消費率は予測より良い5.1億ドルの模様。また、業績発表時にドンالدCEOは、22年下半期に黒字化する見通しだと説明している。クルーズ船の予約状況が回復傾向にあり、スピード感は無いものの経済正常化による株価の自然回復を狙うことが可能な銘柄だと思われる。ブルムバーグによる2022年・2023年の調整後一株利益（希薄化後）はそれぞれ、-0.49ドル・1.78ドルと予想されている。

商品関連

■CF（CFインダストリーズ）

CFインダストリーは米中部のトウモロコシや大豆などの栽培用の肥料メーカー。窒素、リン酸塩肥料、アンモニア、尿素、硝酸アンモニア、ディーゼル排気液、アンモニア水などを製造・販売する。食用・家畜用飼料の需要の高まりから穀物高になり、農業・肥料関連株は強含み基調にあるが、CFの予想PERは1.4倍程度で推移している。

■XOM（エクソンモービル）

エクソンモービルは大手石油関連企業。石油・ガスの探査・生産などの上流部門からガソリンスタンド運営などの下流部門までを手掛け、プラスチックなどの石油化学品も取り扱っている。新型コロナウイルスの影響により大きく下落した原油需要だったが、コロナ禍からの経済再開により回復してきており、今後も経済回復と共に拡大していくことが見込まれる。一方で近年の脱炭素に向けた動きから原油開発にかかる投資が減少傾向にあったことにより供給は不足傾向にあり、原油高はしばらく続きそうな状況であると推測されることから同社は魅力的だと思われる。また、同社は高配当を出す企業でもあり、足元の配当利回りは5%以上のところで推移している。

M (メーシーズ) の5年チャート



出所：Bloombergよりアイザワ証券作成

CCL (カーニバル) の5年チャート



出所：Bloombergよりアイザワ証券作成

参考銘柄（インフレによる価格転嫁）

安定業績株

■SRE（センブラエナジー）、PWR（クアンタサービシズ）、WM（ウエイストマネージメント）

セクター分散を図り、ポートフォリオの安定を目指す場合には上記の3銘柄は注目に値する。SREはカリフォルニア州の天然ガス火力発電を中心とする公益株でNEE（ネクステラエナジー）と比較して割安感に思われる。PWRは政府機関の受託が多い電気設備・工事業者。米インフラ投資の方向性はスマートグリッド化促進の一面もあり、バイデン政権後半の恩恵を長きに亘り享受する可能性がある。WMはごみ処理業者で各自治体から公共サービスを受託している。CPIが上昇する中で価格改定が進みやすい業種として自治体の公共サービスが挙げられており、SREの電気料金と並んで値上げが受け入れやすいと推測される。

参考銘柄（それでもやっぱりグロース株）

メタバース

■FB（メタ・プラットフォームズ）

フェイスブックやインスタグラム等のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を運営。これまで株価が低迷した要因は、今後メタバースへ注力することで年間100億ドルとも言われる投資負担が嫌気されたものと推測される。12月9日にゲームの「Horizon Worlds」がリリースされ、メタバース事業への注力が再度注目される可能性がある。同社は今後、ティッカーシンボルを「FB」→「MVRB」に変更を予定している。

1月効果

■MQ（マルケタ）、DOCS（ドクシミティ）

6月に新規IPO（株式公開）した銘柄、MQは12月6日、DOCSは12月21日にロックアップ期限を迎えた。いずれも2回目の四半期業績発表を終え、それぞれ好内容と思われたが、ロックアップ期限切れとの兼ね合いから株価が低迷気味に推移している。年明け以降は短期的な反発が見込めるとされる。

その他信用取り組みが良い銘柄（推奨銘柄ではございません。）

ティッカー	社名	直近終値	ステータス	発表予定日	発表時刻	予想株価変化率	前回発表日	SI比率	信用売残/浮動株
LMND US Equity	Lemonade Inc	42.56	推測	2022/03/01	-	11.57	2021/11/08	7.60	40.07
BYND US Equity	ビヨンド・ミート	66.75	推測	2022/02/25	-	9.30	2021/11/10	5.94	37.27
GOGO US Equity	ゴゴ	13.83	推測	2022/03/11	-	7.85	2021/11/04	21.35	35.36
BLNK US Equity	ブリンク・チャージング	28.53	推測	2022/03/25	-	-	2021/11/11	6.85	35.08
FSR US Equity	Fisker Inc	17.03	推測	2022/02/25	-	7.22	2021/11/03	5.00	28.67
DNUT US Equity	Krispy Kreme Inc	16.22	推測	2022/02/04	-	2.01	2021/11/09	3.99	27.00
IRBT US Equity	アイボット	67.98	販	2022/02/09	取引終了後	9.80	2021/10/27	13.08	26.40
NKLA US Equity	Nikola Corp	10.78	推測	2022/02/25	-	8.55	2021/11/04	5.88	25.78
VLDR US Equity	Velodyne Lidar Inc	5.32	推測	2022/02/25	-	13.15	2021/11/04	7.42	25.66
CHWY US Equity	チュイ	60.27	推測	2022/03/30	-	8.49	2021/12/09	2.94	25.58
MSTR US Equity	マイクロストラジ	608.28	推測	2022/01/28	-	5.41	2021/10/28	3.74	25.52
RXT US Equity	Rackspace Technology Inc	14.05	推測	2022/02/18	-	8.14	2021/11/15	9.44	25.08
SKYT US Equity	SkyWater Technology Inc	16.2	推測	2022/03/15	-	17.35	2021/11/02	6.68	23.99
SIRI US Equity	シラクXMモバイル・インクス	6.45	推測	2022/02/02	-	3.82	2021/10/28	9.22	23.18
BBBY US Equity	ベッド・バズ・アズド・ビヨンド	16.04	予定	2022/01/06	取引開始前	14.65	2021/09/30	5.52	22.91
W US Equity	ウェイブ	198.88	推測	2022/02/25	-	10.03	2021/11/04	10.14	22.42
AI US Equity	C3.ai Inc	33.2	推測	2022/03/01	-	12.81	2021/12/01	1.98	21.80
INO US Equity	イノボ・ファーマシューティカズ	5.72	推測	2022/03/01	-	36.20	2021/11/09	9.78	21.16
GDRX US Equity	GoodRx Holdings Inc	33.37	推測	2022/03/11	-	6.93	2021/11/10	9.47	20.99
RIDE US Equity	Lordstown Motors Corp	3.96	推測	2022/03/17	-	21.48	2021/11/11	3.93	20.66

出所：Bloombergよりアイザワ証券作成（データ取得 12/28時点）

FB（メタ・プラットフォームズ）の5年チャート



金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等: アイザワ証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 3283 号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関:

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター(略称:

FINMAC)

米国株投資の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。外国株式は、為替の変動等により、損失が生じるおそれがあります。流動性が低い銘柄の場合、市況または注文の規模により、望ましい価格での売買注文の執行が常に可能とは限らず、極端な場合、取引ができないことがあります。

アイザワ証券 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。

本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。

結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。

このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

お客様にご負担いただく手数料等について

外国株式

① 委託取引の場合

米国株式の外国取引にあたっては、取引口座に応じて以下の委託手数料(税込)をいただきます(最低手数料は買いの場合のみ 5,500 円)。

対面口座: 売買代金の一律 2.20%

インターネット口座「ブルートレード」:

コールセンター発注 売買代金の 1.98%、

コンサルネット発注 売買代金の 2.20%

② 国内店頭取引(米国株式)の場合

お客様に提示する売り・買い参考価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で算出した社内価格を仲値として、仲値と売り・買い参考価格との差がそれぞれ原則として 2.5%(手数料相当額)となるように設定したものです。当該参考価格には手数料相当額が含まれているため、別途手数料は頂戴いたしません。

米国株式の売買にあたり、日本円と米ドルを交換する場合は、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートに 50 銭のスプレッドを加算または減算したレートを適用します。買付けの場合は加算され、売却の場合は減算されたレートが適用されません。

お取引の際は、契約締結前交付書面等をよくお読み下さい。

**LINE公式アカウント
はじめました!**

ベトナムを中心としたアジア情報
をお届けします。

[友だち追加はこちらから↓](#)



ID : @aizawa